

全仏

NO. 212

11 / 50



何が本当なのか？

雇用政策の元締、労働省の職業安定局の話。来年度の大学卒業生の採用は三〇%減、失業保険の受給者は未曾有の九十万、でもまだ日本には雇用不安はないのだから。

理由は、なるほど大企業の採用は減っているが、今まで大学生が見向きもしなかった中小企業の求人ばかりは決まらずに少なくないし、高校生に関しては五十数万の卒業生に対して、百万人も求人があるという。職安の窓口からみても、本当に明日から食べられない人が果して何人いるか？ 中には失業保険をもらって海外旅行に出かけるような例もあるとか。

一体何が本当なのか？ どうやら大企業中心の時代は終わったということ、もはや大学卒はエリートではないということらしい。

人間はもとより、すべてについて真剣に問いたださねばならない時代なのだ。

(T・K)

写真は神戸市立中央体育館で行われた第二十三回全日本仏教徒大会兵庫大会の開会式(記事参照)

第23回全日本仏教徒会議

兵庫大会ひらく

六グループで討議

エキゾチックな港町

「神戸」。第二十三回全日本仏教徒会議兵庫大会は「人類の不安にみ仏の光を」というスローガンのもと、十月一・二日の両日、兵庫

県神戸市の神戸市立中央体育館、神戸市立文化ホールを中心に、全日本仏教会、兵庫県仏教会の主催でひらかれた。今回は四部会ならびに宗派代表懇談会、県仏代表者会議とにか

かれ、それぞれ終始熱心に提出議案にそって討議し、実のある大会であった。

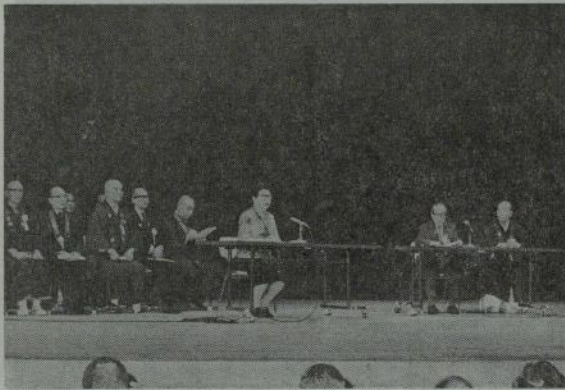
第一日目(十月一日)

開会式典、総会の行なわれる神戸市立中央体育館は、受付開始前より多数の参加者がつめかけ、玄關脇のポールには仏旗、法輪旗などが快晴の秋空にはためき大会を盛りあげる。

式典

田村信弘師(大会総務・兵庫県仏)の

司会により、まず大谷昭世師(大会副会長・兵庫県仏)が力強く開会を宣言。行事鐘の音とともに小池真禪院下(須磨寺派管長)導師のもと、三浦依文を唱和しおごそかに法要を厳修。岸信宏大会総裁(全仏会長)の式辞につづいて、神田寛雄全仏理事長、佐藤寛雄大会長(兵庫県



部会報告をする山本スギ女史

仏会長)が挨拶。来賓各位の祝辞、メッセージ、祝電披露があつて式を閉じる。

記念講演

百万遍法主林霊法台下は「救いは絶望の果てに」と題し、現代の仏教徒はこの時代にいかに対

如すべきか、また仏教徒の社会的使命はいかにあるべきかを力強く訴え、テーマである「人類の不安にみ仏の光を」について、多数参加の仏教徒にアピールするところが大きであった。

総会

司会是小峰令丸全仏組織部長。白川良純全仏総務局長の開会の辞、飯議長(桜井大乗全仏事務総長)による議長団の選出とすすみ、議長団(浅井堅教、江西寛堂、南谷恵澄、栗本俊道、佐藤寛雄の各師)を代表して浅井師が挨拶し議事に入る。加藤海晃全仏組織局長が大会幹事紹介、議事運営規則説明、議案上程、日程説明をおこない、桜井事務総長が全仏事務報告。清胤徹昭全仏国際文化局長の開会の辞で総会を終る。

部会

部会ならびに宗派代表者懇談会、県仏代表者会議は左記のようなテーマにて、議案(別掲)にそって討議された。

第一部会(実践) 現代の不安に仏教徒はいかに対処すべきか―神戸市立文化ホール

第二部会(檀信徒) 檀信徒の地方組織

をつくろう―神戸市立中央体育館
第三部会(婦人) 母の心を―神戸市婦人会館

第四部会(青年) 仏青の全国組織をつくろう―旧海員会館神戸文化小ホール

県仏代表者会議―現代の不安に仏教徒は如何に対処すべきか―神戸総合福祉センター

宗派代表者懇談会―全一仏教運動の高揚について―兵庫大仏能福寺

瀬戸内寂聴尼が講演

第二日目(十月二日)

小雨の降る中を多数の仏教徒が詰めかけ広い神戸市立文化ホールも満席になるほどの盛況であった。まず有原日耕院下(法華宗本門流)導師のもと法要厳修。

記念講演

「愛すること祈ること」と題し、瀬戸内寂聴尼が講演。ご自分の出家への動機、得度式の模様を織りこみ、人間の心の内に住む「あこがれの心」(願生心)について、また人間はどこへ行くのかという疑問を人々に投げかけながら、御自身の求道を語りかけた。女性らしい細やかな語り口に、聴衆はおのが心をみつめながら、そして秋の日にも似たさわやかな気持ちで静かに聞きいっていた。

総会

開会の辞・清胤局長、議長挨拶・栗本師のあと、議事にはいり、まず各部会の報告が板橋宥成師(第一部会)、田路正之氏(第二部会)、山本杉氏(第三部会)、増田貞四師(第四部会)、小池真禪

師（宗派代表）、郡司博道師（景仏代表）よりなされ、報告どうり決定した。宗家森本博子女史の印度舞踊「法の舞」で休息したあと、宣言決議文（別掲）の発表が宣言決議文起草委員会・真溪義貫委員長よりあり承認された。新聞信雄師（大会幹事長）の閉会の辞のあと、だちに閉会式に移った。

閉会式

佐藤大会々長、神田全仏理事長の挨拶につづき、桜井事務総長より次期開催地の発表があり、次期第二十四回大会開催地三重県の高島広勝師（三重県仏常務理事）へ大会旗が伝達された。そのあと次期開催地を代表して高田派事務総長・服部恭寿現下（三重県仏会長代理）の挨拶大会参加者代表の熊野龍夫師（千葉県仏）の挨拶につづき、中山寺派管長・石堂恵俊現下の発声で万歳三唱、鱒淵正浩全仏事務次長の閉会の辞をもって、第二十三回全日本仏教徒会議兵庫大会のすべの行事を終了した。

WFB大会の日
本開催を採択

第一部份会

- 部長 板橋育成
- 副部長 塩入亮達
- 問題提起者 真溪義貫
- 議事運営委員 新聞信雄

一号議案「現代の不安に仏教徒はいかに対処すべきか」

- 提案団体 全日本仏教会
- 提案説明者 真溪義貫

シンポジウム等においてさらに検討を重ね、その結果は従来通り機関紙、紀要等において報告することを了解、採択となった。

- 二号議案「合掌生活」の推進
- 提案団体 大阪府仏教会
- 提案説明者 三村栄徹

「拝み合う心でこの世にかがやきを」をスローガンとする実践報告等があり、今後実践面の検討を重ねて行くことにて承認、採択されました。

- 三号議案「核兵器完全禁止国際協定の締

第二部份会

- 部長 田路正之
- 副部長 池上靈心
- 助言者 摩尼清之
- 議事運営委員 村主恵快

一号議案「地域仏教会の活動に積極的に協力し、更に全一仏教運動をより一層促進するため、各市町村に檀信徒会を結成し、各檀信徒会の連絡提携をはかり全国的組織を作ろう」

- 提案団体 新潟県仏教会
- 提案説明者 池田忠誠

各宗派による仏教活動のみでは複雑多岐な地域社会の悪の浄化はなかなか困難である。この各宗派の仏教活動に呼応して

結を国連に要請する宗教者のアピール支持の件」

- 提案団体 近代仏教研究会
- 提案説明者 小室裕充

本大会において核反応その他毒薬、生物兵器等の禁止を強く訴える決議を行うことを可決し、本案の取扱うことを了承した。

- 四号議案「世界仏教徒会議（WFB）を日本で開こう」
- 提案団体 全日本仏教会
- 提案説明者 清胤徹昭

一九七八年以降日本においてWFB会議を開催すべく全仏当局は万全の準備をしてこれに当ることを要望して本案を採択した。

地域的に各宗派を超えた檀信徒会を結成し、これを横として織りなす仏教活動によって初めて、第二十三回大会の「スローガン」である「人類の不安にみ仏の光を」の実践ができること確信し提案通り万場一致をもって決定いたしました。

なお、これが推進について次の三点を要望することにいたしました。

- 一、全日本仏教会は檀信徒会の結成に責任部門を設置し、各府県仏教会もこれに呼応してそれぞれ結成推進の窓口を設けられたい。
- 二、全日本仏教会は檀信徒会の横の連絡をはかり結成されている檀信徒会をもって全国組織をつくるよう指導されたい。
- 三、檀信徒会結成作りに必要な人材の育成のため研修会等適切な措置をこうせ

第三部份会

- 部長 山本 杉
- 副部長 五百井千代子
- 助言者 山口貴美子
- 若林隆光
- 議事運営委員 船口暉子

- 一号議案「母の心」
- 提案団体 全日本仏教婦人連盟
- 提案説明者 山本 杉

国際婦人年にあたり、仏教精神の根底ともいえる慈悲の心、母の子に対する愛情からみた「母の心」ということで提案された。部会を有意義にするため、会議前日に山田無文老師のご法話、同日は加藤辨三郎先生のお話を伺う。その結果

もっともと仏教婦人として母性というものについて自覚を失くすてはいけない自然を基盤として精神的に大きくなることよって、人類の不安を脱しなくてはならない。そこには仏教精神が社会のあらゆる分野に入りこみ、仏教の慈愛の心が広まることを実践していかななくてはならないとの結論に達した。

第四部份会

- 部長 増田貞円
- 副部長 摩尼和夫
- 助言者 佐伯真光
- 議事運営委員 井上日宏

一号議案「仏青の全国組織をつくらう」

提案団体 全日本仏教青年会
提案説明者 竹田英宣

過去の仏青の歴史をみたとき、多くの先輩諸師が本當の意味の全国組織をつくらうという努力を重ねながら、今日に至るまでなしとげられていないというのはどこにあるか、宗我などの問題をのりこえて、お互いに手を取りあい、仏青の理論方法、人材、資金など研究課題をふまえてつづ全国組織をつくらう。ということではまず一県一仏青を目標にして、各都道府県仏教会を窓口として、一県一仏青の組織化を促進しようということで万場一致で採択された。なお青年部門だけの議案



小池師を議長に宗派代表者懇談会

で採択はしていないが、宗教法人への寄付非課税運動を展開しよう、黒い法要を追放しようという二点も話し合った。

宗派代表者懇談会

座長 小池真禪
幹事 麻布照海

懇談会であり、各自がおもうように話し合い、将来の仏教運動の参考になればということで、戦後の頹落している人間道徳をいかにしてたちなおらせるか、青少年の教育問題、仏教映画の作製、各宗親和の会合をもつように、などのご意見があった。

出席者(順不同敬称略)

- 金子日威 日蓮宗管長
- 神田寛雄 浄土真宗本願寺派宗務総長
- 小池真禪 真言宗須磨寺派管長
- 石堂恵俊 真言宗中山寺派管長
- 有原日耕 法華宗本門流
- 永井日揮 本門法華宗管長
- 壬生台舜 聖観音宗々務総長
- 本霊神山 融通念仏宗管長
- 萩元明信 〃 宗務総長
- 古屋道雄 浄土宗々務総長代理
- 服部恭寿 真宗高田派宗務総長
- 水谷修夫 真言宗善通寺派管長代理
- 大友 謙 真宗大谷派参務
- 岡田昌道 真言宗智山派教学部長
- 長谷川霊信 念法真教々務総長
- 四宮正音 孝道教団
- 山崎義天 時宗々務総長
- 木辺宣慈 真宗木辺派管長

- 西口公教 真言宗国分寺派管長
- 南谷恵澄 和宗執事長
- 健代和広 和宗
- 渋谷有教 真宗仏光寺派門主
- 勝部公正 〃 総務
- 田辺哲庵 曹洞宗々務総長
- 風間円静 日蓮宗教務部長
- 野間秀泉 妙見宗管長
- 青木法鷹 〃 宗務総長
- 江西南寛堂 臨濟宗妙心寺派宗務総長
- 神原玄祐 天台宗々務総長

県仏代表者会議



熱心に意見をかわす県仏代表者会議

座長 栗本俊道
副座長 大谷昭世

司会 郡司博道
上程議案は特別にないので、まず各都道府県仏の現況報告、特に事業報告を中心に話し合われた。

これらを大別すると地区檀信徒大会、各種教化運動、各種募金運動、福祉事業地域社会の奉仕活動、仏教キャンペーン慰霊法要、各種研修会など多様な事業を全一仏教のうえにたっておこなっている。これらは一宗派で実行すべきものではなく、全日本仏教会の推進、中核母体としての県仏の位置づけがはっきりしている。

また多数の県仏代表者より、このような意義ある会議を単なる県仏自体の組織教化だけで終ることなく、時局問題などいかに対処すべきかというようなものをやるべきであると提言があり、代表者会議としては、大会として年に一度開くだけでなく、年に一〜二回正式な会議を開催してほしいとの要望がだされた。

つぎに大阪府仏より、黒い法要の追放に関する提言があり、いろいろ討議したところ、参加代表者一同はその趣旨に賛成であるという申し合せをした。(この黒い法要追放の件に関して、一部新聞で全仏の統一見解として決定したとの報道がありました。これは上程された議案でなく、会議の中の申し合せであって大会決議、全仏決議ではありません。)

出席都道府県仏一山形、栃木、埼玉、群馬、東京、神奈川、千葉、新潟、静岡、長野、岐阜、三重、和歌山、滋賀、京都、大阪、岡山、徳島、香川、兵庫。

人類共同体の世界建設へ

決議

- 一、われわれは、一切のエゴイズムを超越し、自利利他、相依相助の仏教精神にもとづき、人類共同体の世界建設を指回する。
- 二、われわれは、福祉優先を強く主張し弱者も平等に生存しうる社会建設に努める。
- 三、われわれは、男女対立の差別的人間観を排し、一切平等の仏教精神にもとづき、今日の危機打開に邁進する。
- 四、われわれは、核兵器の廃絶と、毒素生物兵器の開発禁止を強く要求し、一切の暴力を排除して戦争なき世界の実現を期す。
- 五、われわれは、「かけがえのない地球」を積極的に破壊から守ることに努

- める。
- 六、人口の爆発的增加が、人類の危機を招く要因である限り、われわれは、墮胎、人工中絶を除き、禁欲を含む慎重な方法で実施される人口抑止を支持する。
- 七、宗教の自由、政教の分離が厳正に守られることを強く要求する。

昭和五十年十月二日
第二十三回全日本仏教徒会議兵庫大会

宣言

人間が蓄積してきた自然科学、社会科学の知識によって打ち建てた文化、文明は、今や、人類の滅亡を誘発する臨界点にまで達しつつある。核均衡に支えられた平和の中で、破局の可能性は依然とし

て存在するし、更に生物兵器、化学兵器の開発も重大な脅威である。また、環境破壊や人口爆発等の生態学的終末現象も一層深刻の度を増している。しかも、これら人類破局への諸現象を防止する諸々の提言も具体化されることなく、全くの「青写真」の域を脱していない。われわれ仏教徒は、三回の大会、二回のシンポジウムを開催して現状を分析し、人類社会の来るべき危機に対処するため真剣な討議を重ねてきた。人類の進化は競争の原理としての「適者生存」に貫かれてきたことは否定できないが、人間はまた「自然」への適応から「文化」への適応へと移行し、適者生存という自然界の法則から解放されつつあることも事実である。

しかしながら、優勝劣敗の思想は生産機構、個人、民族、国家間の競争の原理として依然強力に貫かれていし正当化されていることを指摘せざるを得ない。そして、かかる価値観こそ人類の危機を招いていることを改めて認識するもので

ある。また従来の進歩と成長を支えてきた背景は、自然を無限と考えたことにあ

るが、地球は決して無限ではなく、空間も定員も資源もすべて限られた閉鎖世界の中にあることを認識しなければならぬ。そして、われわれはこの有限の世界の生態システムの中でしか自らの場を持つことは出来ないとき、人類の危機を救うものは一切のエゴイズムを超越して共に生きるという以外に道はない。仏教は、今日の人類の危機を共業（ぐうごう）と観ることが出来る。この共業を克服するためには、個々に「さとり」を開くことが必要であるが、そのためには自利利他、相依相助の仏教精神に基づき、共存と自制と連帯の価値観を基本とする未来社会の確立に、われわれ仏教徒は、その持つすべての機能を総動員して立向うことをここに固く誓うものである。

右宣言する。
昭和五十年十月二日
第二十三回全日本仏教徒会議兵庫大会

兵庫大会の反省

兵庫県仏教会会長 佐藤 覚 雄

る心算をしてきたが、前例の名の下に次から次へと追加申入れて六

い。私共は参加者を初めから七千人と予想を立てていた。一日四千五百人、二日二千五百人の来場を得たので目標に狂いはなかった。ただ七千人を二日に分散するように工夫したので、第一日の盛り上がりか勢いをそがれた嫌いもあったようである。

体育館は相当の設備費を投じたが、音響の効果悪く、林法主の名講演も聞きとりにくく、残念かつ講師に気の毒でもあった。第二日の瀬戸内寂聴尼の講演も味い深く大衆の心をとらえていたし、法の舞も本大会に極めてふさわしい清興であったと考える。

およそ大会が会場の制約を受けることは申すまでもない。ちょうど一年前に予約に行ったのに文化ホールが全面的に借りられなかった。先約があつては余儀ない。当初に私達は部会を三つくらいに絞

部会ということになってしまった。勢い会場の分散を招き、不便で連絡も悪く統制も困難、しかも役所の施設で時間の制限が厳しい。不如意な上に参加者に行届かぬ点が多々でてきたのも止むを得な

第一会場の体育館の開会式で心なき人の長広舌で貴重な時間を空費されたのは遺憾であり、講演の時間が遅れ、部会開会の時間までも影響される仕儀、その上

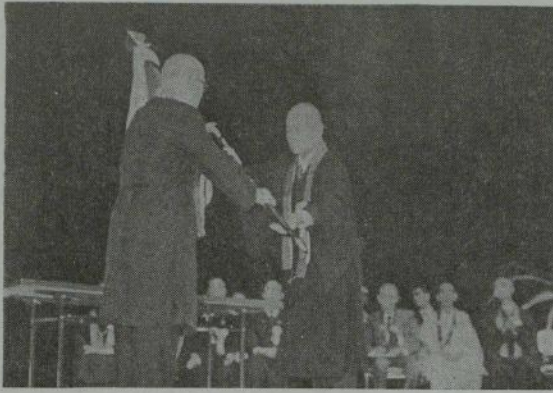
最後の部会報告も簡明に終り各部会の経過を知り得たが、県仏代表者会議の課題、例の黒い法要について、部会長であった栗本師が特に議長席からその真相に

ついで、明確な時宜を得た表明をしたにもかかわらず、後二日ほど各新聞社の問合せの電話に悩まされた。

会議の本筋よりセンセーショナルな問題にとびつクジャーナリズムの本領ともいふべきか。

とかく仏天の冥護と具内顧問大徳をはじめ全会員の物心両面の協力を頂いて、無障礙のなか盛大に大会を終らせて頂きただ感謝いたしておる次第です。

最後に一言申したいことは、仏青の部会ならびに婦人部会について全仏当局は一部会の構成に何の接触もなかったようですが、少なくとも拡大充実を積めるならこれをグループの独走に任せず、各府



次期開催地三重県仏の高島同県仏常務理事へ大会旗の伝達

県に参加を呼びかけ、開放された部会にせねば担当地の青年や婦人会員はそれぞれに役割に就いて参加できないことは勿論、他県仏からの参加なり協議もできません。部会にするなら今一歩リードし会員の勧奨等に当局自ら手を打ち、ぜひ助成に努められることを希望します。

大会をかえりみて

全日本仏教会組織局長

加藤 海 見

大会に集結した人々は何を望んで参加したか、仏教徒、宗教人さらに社会は何を期待しているか、二十三回の大会を重ねて積み上げられたものは何か、本大会の意義は仏教徒にとって大なるものがあると考えます。年々全一仏教運動推進の機運が盛り上がりつつある現在、我々は宗派のワケ内にとどまらず、直面する現代の不安に仏教は如何に対処すべきであるか、それをどのように具体的実践活動に結びつけるかが、当面の重大なる課題であると言えましょう。

もとよりその活動が即効的な効果を生むことを望むのは無理であろうが、回を重ねて積み上げられたものを土台として大会の宣言決議が永続性のある実践的なものであり、それを日常の社会生活の中に融合せしめて、これを具現実践していかなければ、大会を開催した価値は何も無いことになりません。

この秋にあたり、我々仏教徒は仏教精神に基く機能を各人持てる力を精いっぱい

いに發揮して、目的達成のためにまい進すべきであると確信いたしました。

本大会は各宗派、都府県各仏教会、仏教関係各団体の方々を始めとして、多くの仏教徒の方達の参加を得て、僧俗一体となった仏教の力を内外に示す有意義な大会に終始いたしました。

本大会は仏教の今後の基本的方針に関するものが多く提案され、地元仏の御努力によって招聘された林靈法主及び瀬戸内救聴尼のお二人の記念講演はそれ等を大きく支えて頂いたものがあり、これ等を含めて現代仏教のあるべき姿を正しく決議、宣言されたことは、誠に意義あることと申せましょう。終りに大会の準備、実行に御尽力を頂いた各師、特に地元兵庫県仏教会に深く感謝の意を表しますと共に、今後の全一仏運動に共々精進して行くことを望んで止まないものがあります。

世界仏教徒会議日本

開催に小委員会設く

全仏国際専門委員会

先に神戸市での全日本仏教徒会議で決議された、第十二回世界仏教徒会議を日本で開催について、十月二十一日、全仏会議室で開かれた全仏国際専門委員会に諮問された。委員会は積極的に開催の方向にもっていくことで意見の一致を見、小委員会を設けて開催案を作り、十一月

「全国寺院名鑑」

頒布中

定価 四万四千円のところ本年中に限り二割引きにておわけ致します。(三万五千二百円です。)

但し、送料は実費を頂戴致します。

なお、都内は郵送不可能ですので全仏までおいで下さい。

お申し込みは左記へどうぞ！
財団法人 全日本仏教会 総務局
東京都台東区西浅草一ノ五ノ五
電話 〇三(八四三) 六三四一

五日に事務総局に答申、事務総局はその案を常務理事会、理事会に提出することとなった。

小委員会の委員は岡野貴美子、麻布照海、村野宣忠、織内七郎、西村輝成、松涛弘道の各氏である。

長岡市仏教徒大会

三千人が参加して

兵庫大会にも多数の檀信徒が参加するなど活発な活動をしている長岡市仏教会長岡市檀信徒会では、花祭執行五十周年と檀信徒会結成五周年を記念し、十月十五日、みほとけのもと、みんなて手をつなごう」というスローガンで、第一回長岡市仏教徒大会を開催した。会場の長岡

東京都仏教連合会

東京都仏教連合会は昭和三十七年六月十八日上野精養軒で創立三十五周年式典を催したから、その成立は昭和二年東京仏教護国団の名称で発足したことになる。団長は大森亮順師で、事務所は浅草寺にあった。

昭和十六年戦時報国体制が布かれ、僧侶の勤労働員徵用事務を引き受けた。大村桂巖団長のととき事務所

紹介 仏 県

税制問題に取り組む

創立五十周年も間近か

は芝の増上寺に移転し長岡慶信師を理事長として団長制を廃止し、昭和二十年三月の空襲災禍を経て昭和二十一年の春、大塚・西信寺に事務所を移すとともに、名称を東京仏教団と改め、栗本俊道事務局長のもと、都内寺院全般の戦後処理事務に当ることとなった。

戦災寺院復興の努力

昭和二十二年から都有墓地無償譲与の運動を二十四年還付手続完了まで、都建設局の都内戦災寺院墓地を郊外に

集団移転することの阻止のため都内寺院墓地整理委員会を二十三年までで成功し、戦災寺院復興のための指定生産資材配給に特別配給運動をした。いずれも都内寺院のため有利な解決をみたが、長岡理事長・栗本事務局長の手腕が高く評価される。

寺院共済会を創設

昭和二十六年宗教法人法が施行されて、宗教法人事務指導、宗教法人備付帳簿の作成、寺院住職給与所得に関する国税局との折衝をはじめ、宗教法人の儀式用物品に対する課税問題、寺院

の高岸寺に移し「東京都仏教連合会」と改称した。それにもない理事長制を廃止し、初代会長に來馬師が就任、昭和四十五年の春に來馬会長が死去され、栗本俊道常務理事が会長代行となり、事務局を北区昌林寺に移し郡司博道事務局長となつて、総会理事会において栗本現会長を選任した。

郡司事務局長は宗教法人事務指導

とくに税制問題に取り組み、法人事業税、収益事業不動産貸付事業などの課税について寺院の立場を有利に解決することに努力しているが、これらはすべて一東仏だけのことではなく、全国寺院の問題として、全日本仏教会、日本宗教連盟に働きかける推進力となっている。

全一仏教の展開は、全国都道府県仏教会の横の組織を強化することが根本

であり、各宗派の縦系と共に連絡協調がなされねばならない。本年の兵庫大会においても、県仏代表者会議で強調されたところであるが、東仏としても従来の実績に堪え、現状をふまえて、全一仏教運動の将来展開のために最善の努力をつづけることを決意する次第である。

会長 栗本俊道
事務局長 郡司博道
事務所／東京都北区西ヶ原3の12の6・昌林寺内

市厚生会館大ホールは三千人の参加者であふれ、記念大法要、講演、清興がおこなわれた。全仏より組織局の加藤局長、杜多主事が出席しお祝詞をのべた。

永平寺で慶弔会

曹洞宗大本山永平寺では、十月九日午後一時より、去る二月二十八日御遷化された第七十四世貫首佐藤泰舜禅師の本葬儀が営まれた。師は戦後曹洞宗復興の原動力として活躍され、全日本仏教会の会長としても力を尽されただけに、多数参列者が運化を悼んだ。

十月十日は午前十時より、第七十五世貫首山田靈林禅師の晋山式が執行され、宗内外より多数の祝詞がよせられた。師は駒沢大学学長時代に全日本仏教会の副会長をおつとめになられた。

法華宗（陣門）で晋山・本葬

十月七日午前十時より、法華宗（陣門流）管長・総本山本成寺第八十世貫首猪熊日祥宛下の法灯相統・昇山の式典が奉修された。つづいて午後二時より、前管長・第七十九世中沢日襄宛下の本葬儀が執行された。

法華宗（真門）で法灯継承式

法華宗（真門流）総本山本隆寺では、九月十五日、木下日等前貫首の任期満了にともなう法灯継承式が行なわれた。第九十四世貫首には、本隆寺塔頭宣妙院住職の笹木日靖宛下が就任し、真門流管長の職も兼任する。

事務総局録事(10月)

- 一日 第23回全仏兵庫大会
- 二日 //
- 六日 局内会議
- 九日 永平寺本尊儀參列
- 十日 永平寺晋山式出席
- 十四日 日宗連理事會
- 十五日 長岡市仏教徒大会出席
- 二十日 信貴山加盟要請訪問
- 兵庫県仏訪問
- 二十一日 國際専門委員會
- 二十二日 印度保育施設々立委員會出席
- 二十八日 長野県仏教徒會議大会出席
- WF B大会小委員會

昭和51年版

「全仏手帳」

申込み受付中

全仏總務局では、左記要領にて「全仏手帳」を發行致します。部数に限りがございますので、御注文はお早めに。

内容 三冊依文、四弘誓願、宗門、聖日、加盟団体役員住所録、忌日早見表、その他

サイズ 9×14cm(昨年よりやや大)

定価 四〇〇円(送料実費)

申込先 東京都台東区西浅草一―五
一五(千一―) 全仏總務局宛

昭和五十年十一月一日發行
十一月号 第二二二二号

WF B創立25周年記念
世界仏教徒會議 第11回大会 参加者募集

WF B(世界仏教徒連盟)は1950年にスリランカ国で創立し、ここに25周年を迎えました。この間に日本をはじめタイ、ビルマなどアジアの諸国で大会が開催され、各国仏教徒相互の交流に多大の貢献をおさめました。今回第11回大会がタイ・バンコク市で開催されるにあたり、多数の日本仏教徒が出席しよりよき成果を挙げられますよう、下記のスリランカ訪問団とポロブドール訪問団という二大ツアーを企画いたしましたので、何卒ご参加下さいませようご案内いたします。

—財団法人 全日本仏教会—

スリランカ訪問団

実施時期 昭和51年2月19日～27日 (8泊9日)
参加費用 330,000円(予定)
申込締切 昭和50年12月31日 (申込金3万円)

—旅行日程—

(2月19日)東京—バンコク—(20日)WF B大会開會式出席—(21日)バンコク市内見学—(22日)自由行動—(23日)コロンボ—ネゴンボ—アヌラダプラ—ポロナルワ視察—(24日)ポロナルワ—シギリヤ—キャンデイ視察—(25日)キャンデイ—植物園—コロンボ—(26日)午前自由行動—シンガポール—(27日)シンガポール—東京

(大阪からも搭乗出来ます)
●取扱旅行会社 イースタン・ツーリスト

ポロブドール・バリ訪問団

実施時期 昭和51年2月19日～27日 (8泊9日)
参加費用 350,000円(予定)
申込締切 昭和50年12月31日 (申込金3万円)

—旅行日程—

(2月19日)東京—バンコク—(20日)WF B大会開會式出席—(21日)市内視察—(22日)ジャカルタ—(23日)ジョクジャカルタ—ポロブドール視察—(24日)デンバーサル—バリ島観光—(25日)バリ島観光—(26日)ジャカルタ經由香港—(27日)香港—東京

●取扱旅行会社 千代田トラベル

詳細につきましては全日本仏教会國際部にお問い合わせ下さい。
台東区西浅草1の5の5(東京本願寺内) / 全日本仏教会國際部
電話 03(843)6341〜3

発行人 清塚胤井徹大昭乗

發行所 財団法人

全日本仏教会

東京都台東区西浅草一ノ五ノ五(東京本願寺内)
電話 〇三(八四三)六三四一〜三